

実践報告(Report)

汎用的な言語能力を育む小学校国語科カリキュラムの立案と実践

——名古屋市立大宝小学校での事例研究——

Planning and practicing a curriculum of the Japanese language in elementary school for fostering general language ability: A case study at the Taiho Elementary School, Nagoya, Japan

青木 一起*
AOKI, Kazuki*
森 和久**
MORI, Kazuhisa**

キーワード：国語科，カリキュラム，汎用的言語能力，メタ認知

Key words：Japanese language, curriculum, the general-purpose language ability, metacognition

1. 実践の背景と目的

国語でどんなことを学んだかと聞くと、ほとんどは作品名を列挙するが、どんな力が身に付いたかと尋ねても曖昧である場合が多い。国語科で学んだ「話す・聞く、書く、読む」等の力を、他教科のみならず実生活・実社会で生きて働く汎用的な言語能力の育成につなげていくことが、資質・能力を育成する観点からも重要であると考えられる。

教育課程企画特別部会論点整理（国立教育政策研究所，2015）においては、「思考力・判断力・表現力等や情意・態度等は、各教科等の文脈の中で指導される内容事項と関連付けられながら育まれていく。各教科等で育まれた力を、当該教科における文脈以外の、実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力に更に育てていくためには、総体的観点からの教育課程の構造上の工夫が必要になってくる。」「教科横断的な学びは、学校において身に付けた資質・能力を、実社会で活用できるより汎用的な資質・能力に変えていくために欠かすことのできないものである。」とある。また、新学習指導要領（文部科学省，2017）においても、「これから益々変化していく社会、その中で活躍していく為に、どんな時も汎用的に役立つ能力・態度・志向が求められている。」とされ、「言語は児童の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、言語能力は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。」と位置付けている。すなわち、学校における学びを教室内に留めるのではなく、広く実生活や実社会に活かすことのできる力へとつなげることの重要性を示唆している。

奈須（2017）は、教科等横断的な視点での学びが求められているなかで、「子どもたちは、汎用的で有用性の高い思考の道具を手にすることで本質的な特質をつかみ取ることができる。」とし、それが、今後の学びにおいても積極的に活用し、しっかり

* 名古屋市立大宝小学校 ** 椋山女学園大学教育学部

本論文は椋山女学園大学教育学部紀要の投稿・執筆規程2に基づき査読を受けた（2017年11月13日受付；2017年12月25日受理）。

考え抜こうとする学びに向かう力を育むことができるとしている。そこで、言語能力を育成する中核的な教科である国語科を要として、教育課程全体を通して言語活動の充実を図るとともに、教育課程と国語科の往還を図るカリキュラム・マネジメントを地域や学校の実情を踏まえながら具体的に実践し、検証していくことが大切であると考へた。そのためには、育成すべき「資質・能力」（批判的思考・意思決定・問題解決等の認知的スキルやコミュニケーションと協働等の社会的スキル等）を明確化し、系統立てて指導したり評価したりしていくことが重要である（ファデルほか、2016）。

本研究では、小学校を対象として、国語科の学習を中核とした「基礎的・基本的な語彙力及び話す・聞く、書く、読む、等の言語能力の定着」と「論理的な表現力の形成・思考のことばの活用」や「学習に対するメタ認知」を基に、他教科や実生活・実社会において汎用的に活用できる言語能力の基礎・基本を培うことができるようカリキュラムを再構成し、その有効性について検証することとした。なぜなら、新学習指導要領で目指しているものは、「実社会の様々な場面で活用できる汎用的な言語能力」の育成である。国語科でいえば、「言葉による見方・考え方」をしっかりと働かせて、言語活動を通して資質・能力を育成することになる。すなわち、この「言葉による見方・考え方」は、国語科における「汎用的能力」と結びつき、さらには他教科にも横断的に活用できる言語能力の基盤にもなるのではないかと考へる。

2. 実践方法

本実践は、筆者の勤務する名古屋市立大宝小学校（全校児童1年～6年338名、2017年4月～9月）を対象として行った（名古屋市立大宝小学校、2017）。まず、汎用的な言語能力を育むために基礎・基本の定着、論理的表現力、メタ認知を重点にしながらか、国語科のカリキュラムを再編した。

そのために、まず、国語科を中核とし、育成したい資質・能力に応じた単元構成を行う。また、教科等を横断して活用できる基礎的・基本的な言語能力の習得を目指し、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言語事項の要素を「大宝タイム」として、各学年の国語科の1時間を「15分×3コマ」のモジュールで週三回位置付けて年間計画を立案するとともに、教科間の関連を可視化できるようにマネジメントした（表1）。

次に、論理的な表現力を育成するための思考スキルとして、自分の思考の過程を話型にそって発言できるよう、各学年の発達段階やレベルに応じて学習場面において、活用できる「思考のことば」を構成した。さらに、学習のめあてに沿った振り返り（メタ認知）をカリキュラムに位置付け、学習内容や身に付けた力を確認したり、次（時）の学習への見通しをもったりすることができるようなシートの活用を工夫した。このような「学習を見通し、振り返る力」は、学習の基盤となる資質・能力を培うとともに、これからの実生活や実社会で生きて働く汎用的な力になると考へる。

表1. 6年2学期のカリキュラムマネジメント (例)

目指す児童の姿

自分の将来への関心や見通しをもち、主体的に生き抜くことのできる児童

単元名

未来に生きる私へ ～伝記を通して考える「よりよく生きるということ」～

他教科等とのつながり (2 学期)



具体的な評価とその方法

| 学習活動 | S | A | B | C |
|---|---|--|--|--|
| 伝記「伊能忠敬」に描かれている人物像を「読みの観点」に基づいて読み、自分の生き方について考えたことを作文やスピーチで表現する。 | 伝記における人物像の描き方の特色を理解した上で、描かれている人物像を「読みの観点」に基づいて適切に読み取り、現在の自分の姿と比較しながら、今後の自分の生き方を明確にして表現することができる。 | 伝記に描かれている人物像を「読みの観点」に基づいて適切に読み取り、現在の自分の姿と比較しながら、今後の自分の生き方を明確にして表現することができる。 | 伝記に描かれている人物像を「読みの観点」に基づいて読み、現在の自分の姿と比較しながら、自分の生き方について表現することができる。 | 伝記に描かれている人物像を読み取ることができない。 伝記に描かれた人物像と自分の生き方を関連付けて表現することができない。 |

「大宝タイム」で育む汎用的な能力となることばの力の基礎 (9～10月)

読むこと、書くこと 様々な分野で活躍している人のインタビュー記事や新聞の投稿記事を読み、生き方に関する自分の考えを書く。
話すこと・聞くこと 思考のことば「仮定・推理・観点の変更」を使って、話し合いをする。

そして、それらの取り組みの成果や効果を分析するために、質問紙による意識調査を行った。評価シートによる自己評価については特に小学生のアンケートは信頼性が低いとされるが、調査内容の項目を細分化（参照：全国学力学習状況調査・経済産業省キャリア教育に関する調査項目）し、育てたい資質・能力や学習内容の詳細と関連させることで考察することとした。各質問に対する回答は「当てはまる（はい）」を4点、「どちらかといえば当てはまる（どちらかといえばはい）」を3点、「どちらかといえば、当てはまらない（どちらかといえばいいえ）」を2点、「当てはまらない（いいえ）」を1点として数値化した。

3. 結果と考察

3-1. 国語科を核としたカリキュラム・マネジメントと単元構成の工夫

田村（2017）は、カリキュラム・マネジメントを、学校の裁量権の拡大を前提として、「学校の教育目標を実現化するために、教育活動（カリキュラム）と条件整備活動との対応関係を、組織文化を媒介として、PDSサイクルによって組織的・戦略的に動態化させる営みである」と定義している。このように、カリキュラム・マネジメントとは、学校が教育目標達成のために、児童・生徒の発達に即した教育内容を諸条件との関わりにおいて捉え直し、これを組織して動態化することによって一定の教育効果を生み出す経営活動であるといえる。そこでは、単に個々の教師の授業に委ねるのではなく、学校全体で重点指導事項として児童に対して育成したい資質・能力を明確にすることが重要であると考えられる。

そこで、言語能力を育成する国語科を中核として、各教科等において、言語活動のマネジメントを図る必要があると考えた。なぜならば、現状では、教科間・学年間の系統的指導が出来ておらず、例えば、生活科でインタビューが調査方法として紹介されているものの、国語科では、3年生でインタビューが扱われているし、中学年でポスター・セッションを使わせたいならば、4年生で初めてポスター・セッションを経験しても、それを4年生の理科や社会科で活用出来ないからである。すなわち、国語科が、中心的役割を担いながら他教科と連携して言語能力の向上を図るとともに、国語科が育成する資質・能力が各教科等において育成する資質・能力の育成に資するカリキュラム・マネジメントを考察することが重要である。そこで、「大宝タイム」において、教科を貫く基礎となる言語能力を取り出して習得させ、その培った力を各教科の学習で活用できるようにした。このように、教育目標を見据え、各学年で目指す児童像を設定しカリキュラムの編成を行った後、学んだ言葉の活用や理解などについて、子どもたちに意識調査を行った（表2）。

その結果、「項目4. 活用意欲」、「項目11. 思考の意義の自覚」、「項目12. 未来に向けて」において3.5を上回った。このことから、「大宝タイム」の学習で身に付けた言語能力を、国語科の授業や他教科の学習でも活用したいという意欲が多くの児童

表2. 大宝タイムにおける基礎となる言語能力の習得に関するアンケート(太字3.5以上の項目)

| 調査項目 | 調査内容 | 【大宝タイム】 | 指数 | | | | | | |
|------|-----------|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--|
| | | | 6年 | 5年 | 4年 | 3年 | 2年 | 1年 | |
| 1 | 学びの楽しさ | 大宝タイムの学習で身に付けたことを、国語科の授業やほかの教科の学習でも、発揮できることは楽しいですか。 | 3.08 | 3.40 | 3.20 | 3.34 | 3.11 | 3.46 | |
| 2 | 想起 | 国語科の授業やほかの教科の学習に取り組むとき、大宝タイムで学習したことを思い出そうとしていますか。 | 3.02 | 3.18 | 3.14 | 2.96 | 2.88 | 3.16 | |
| 3 | 活用 | 大宝タイムの学習で身に付けたことを、国語科の授業やほかの教科の学習でも使って課題に取り組んでいますか。 | 3.08 | 3.13 | 3.20 | 3.06 | 2.87 | 2.79 | |
| 4 | 活用意欲 | 大宝タイムの学習で身に付けたことを、国語科の授業やほかの教科の学習でも使っていきたいですか。 | 3.53 | 3.65 | 3.58 | 3.55 | 3.38 | 3.55 | |
| 5 | 活用場面予想 | 大宝タイムや国語科の授業の学習で身に付けた力は、どのような場面で活用できそうか、予想することができますか。 | 3.14 | 3.11 | 3.14 | 2.94 | 2.92 | 2.89 | |
| 6 | 活用の喜び | 大宝タイムの学習で身に付けたことを、国語科の授業やほかの場面で活用できたとき、うれしい気持ちになりましたか。 | 3.33 | 3.27 | 3.24 | 2.89 | 3.00 | 3.25 | |
| 7 | 満足度 | 大宝タイムの学習を通して、国語の基礎・基本の力を身に付けることができ、よかったと思いますか。 | 3.49 | 3.60 | 3.44 | 3.25 | 3.08 | 3.11 | |
| 8 | 理解 | 大宝タイムの学習で自分が身に付けたことを、友達に説明することができますか。 | 2.84 | 3.00 | 3.20 | 2.74 | 2.58 | 2.66 | |
| 9 | 創造 | これまでの国語科の授業や大宝タイムの学習で身に付けたことを結び付けて、学習に取り組むことができますか。 | 3.22 | 3.31 | 3.14 | 3.00 | 2.97 | 2.45 | |
| 10 | 次の学びへ向かう力 | 大宝タイムの学習で身に付けたことを基に、さらに学習してみたいことを自分で考えることができますか。 | 2.98 | 3.35 | 3.06 | 2.85 | 2.71 | 2.88 | |
| 11 | 思考の意義の自覚 | 大宝タイムの学習で身に付けたことを、国語科の授業やほかの場面で活用することは大切だと思いますか。 | 3.61 | 3.82 | 3.68 | 3.51 | 3.61 | 3.45 | |
| | | 国語科の授業やほかの教科の学習に取り組むとき、これまでに身に付けた力を使おうとすることは大切だと思いますか。 | 3.59 | 3.71 | 3.72 | 3.62 | 3.49 | 3.46 | |
| 12 | 未来に向けて | 大宝タイムの学習で身に付けたことは、将来に向けて、役に立つと思いますか。(役立てていきたいですか。) | 3.55 | 3.71 | 3.54 | 3.72 | 3.60 | 3.64 | |

にもっていることが分かる。また、身に付けた言語能力を活用することの意義やモジュールで実施している「大宝タイム」の学習が将来に向けて役に立つことであるという意識も多くの児童がもっていることが分かる。しかし、「項目5. 活用場面予想」、「項目8. 理解」においては、高い指数が見られなかった。これは、「大宝タイム」の学習で身に付けた力を活用しようという意欲はもっているものの、その力がどのような学習につながり、どのように活用できるのかという具体的なイメージができていないことが考えられる。カリキュラムを作成する段階から、「大宝タイム」で取り組む学習が、その後のどのような学習で活用できる力なのかを明確にするとともに、児童に分かりやすく示していく必要があることが分かった。また、自分が身に付けたことを友達に説明することに自信をもつことができている児童がいる傾向もみられる。そのため、この時間だけでなく、様々な教科や日常場面で、自分の考えや思いの説明

する活動を取り入れることで、児童自身が身に付けた力をしっかりと確かめることができるようにしていく必要があると考える。

3-2. 「思考スキル」を活用するカリキュラムの編成

子どもの論理的な思考の流れを、「知覚」「関係づけ」「意義づけ」の3段階に整理し、特に「関係づける力」を重視し、その中に含まれる思考の要素として、「比較」「順序」「類別」「理由づけ（因果関係）」「定義づけ」「類推」の6観点の力を挙げ、その関係性や系統性を立案した。また、子どもに習得・活用させたい論理的思考力として16観点の力を挙げ、その系統性を整理した。そして、これら16観点の思考力を働かせた話し方の例を、「思考のことば」として示した。その際、例えば、「推理」の場合、「Aが～だから、Bは……になると推理できます。」というように話型に「推理」という語を入れ、思考力が話型に表れるように工夫した。話し手がどのような思考に基づいて意見を述べているのかを、聞き手は理解しやすくなり、話し合いにおいて、相手の意見と関連付けて意見を述べることができると考えた。そこで、創造的思考力を育成するために、子どもの思考を促す方法として17の「思考の方法」を考案し、学習場面において、子どもたちが「思考の方法」を用いることができるように、具体的話型として「大宝思考のことば」を示した。このように整理した話型の習得・活用を図り、考えを深めることができる「対話的な学び」の実現を目指し、研究を進めた。そのために、ある教科の時間に自分の思考の過程を単に話型にそって発言するだけでなく、教科を横断し、各教科における学習場面において、「思考のことば」を活用することができる単元を構成し、全学年において年間カリキュラムを作成した（表3）。

このように、論理的な表現力を育成するための思考スキルとして、「大宝思考のことば」を各教室で掲示したり手元において教科等を横断して活用したりしたことが、汎用的なスキルとして定着し活用できたかについて、意識調査を行った（表4）。

その結果、「項目7. 活用場面予想」において、高学年で3.5を上回る高い指数が見られた。これは、これまでの取り組みにより、他教科、学級活動や実際の学校生活等様々な場面で、自分の考えや思いを思考スキルとして「大宝思考のことば」を使って表現する経験を多く積んでいることの成果であると考えられる。また、「項目12. 思考の意義の自覚」、「項目13. 未来に向けて」においても、どの学年においても高い指数が見られ、自分の考えを伝えるときには、相手に分かりやすく伝えることや、自分の考えをまとめたり、深めたりすることが大切であることを児童が自覚できているものと考えられる。しかし、一方で、「項目1. 自信」においては、3.5を上回る指数が見られなかった。

今後は、できるようになったことを自分の言葉で説明したり児童同士で認め合ったりする活動を、授業に多く取り入れることで、自分の考えを話したり、書いたりすることへの自信を高められるような指導の工夫が必要であると考えられる。

表3. 「思考スキル（大宝思考のことば）」の習得・活用を図る年間カリキュラム
（4年生 一部抜粋）

| 力 | 話し方の例 | 国語科 | 社会科 | 算数科 | 理科 |
|---------|--|---|-------------------------------|------------------------------|---------------------------------|
| 焦点化 | 「一番（特に）～は、…です。」 | （5月）花を見つける手がかり （5月）見学したことを報告しよう | （10月）名古屋南部の開発 | （4月）角の大きさ （10月）面積 | |
| まとめ | 「つまり、～。」 「まとめると、～。」 「このように、～。」 「簡単に（一言で）言うと、～。」 | 全単元 | 全単元 | 全単元 | 全単元 |
| 類別 | 「AとBは、～という点が似ている（違う）から、同じ（違う）仲間です。」 | （4月）くらべて見しよう （4月）心のスケッチをしよう （5月）花を見つける手がかり （5月）見学したことを報告しよう （7月）修飾語 （12月）物語を書こう （1月）「便利」ということ | | （4月）角とその大きさ | （4～6月）季節と生き物 |
| 定義づけ | 「AからCの中間の名前は、～です。」 「AからCの中間をまとめると、～と言えます。」 | （5月）分類をもとに本を見つけよう （5月）漢字辞典の引き方 （1月）「便利」ということ | （5月）ごみの処理と利用 | （6月）垂直・平行と四角形 （3月）直方体と立方体 | |
| 変化 | 「だんだん～変化しています（なっています）。」 | （11月）ごんぎつね | （10月）名古屋南部の開発 （11月）愛知県を知ろう | （5月）何倍でしょう （2月）変わり方 | （12月）ものあたりの水の量 （2月）すがたをかえる水 |
| 観点の変更 | 「Aの観点では～ですが、Bの観点から考えると（考えても）、…になります。」 | （9月）クラスで話し合おう （11月）ごんぎつね （1月）「便利」ということ | | | |
| 仮定条件の変更 | 「Aが～だ（でなかった）と仮定すると（しても）、Bは…だと思います。」 「～に条件を変更すると、AはBになります。」 「～に条件を変更しても、A | （5月）花を見つける手がかり （9月）一つの花 | | | （11月）ものの温度と体積 （12月）ものあたりの水の量 |

表4. 「論理的な表現力を育成するための思考スキル「大宝思考のことば」に関するアンケート」
(太字：3.5以上の項目)

| 調査項目 | 調査内容 | 【大宝思考のことば】 | 指数 | | | | | |
|------|----------|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | 6年 | 5年 | 4年 | 3年 | 2年 | 1年 |
| 1 | 自信 | 大宝思考のことばを使って、自分の考えを話したり、書いたりすることは得意ですか。 | 2.69 | 2.93 | 3.06 | 2.72 | 2.75 | 2.77 |
| 2 | 定着 | 大宝思考のことばを使って、自分の考えを話したり、書いたりすることはできますか。 | 3.39 | 3.38 | 3.26 | 3.13 | 2.87 | 2.96 |
| 3 | 学びの楽しさ | 大宝思考のことばを、進んで使っていますか。 | 3.04 | 3.22 | 3.18 | 2.91 | 2.43 | 3.07 |
| 4 | 想起 | 自分の考えを話したり、書いたりするとき、今までに学習した大宝思考のことばを思い出して使おうとしていますか。 | 3.18 | 3.33 | 3.26 | 3.02 | 2.89 | 2.86 |
| 5 | 活用 | 国語科の授業や大宝タイムの学習以外の場面でも、大宝思考のことばを使って、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。 | 3.02 | 3.15 | 3.1 | 3.04 | 2.78 | 2.47 |
| 6 | 活用意欲 | 国語科の授業や大宝タイムの学習以外の場面でも、大宝思考のことばを使って、自分の考えを話したり、書いたりしていきたいですか。 | 3.35 | 3.55 | 3.44 | 3.62 | 3.30 | 3.58 |
| 7 | 活用場面予想 | 大宝思考のことばを使って、自分の考えを表現する力は、いろいろな場面で使えると思いますか。 | 3.59 | 3.78 | 3.62 | 3.23 | 2.97 | 2.98 |
| 8 | 活用の喜び | 大宝思考のことばを使って自分の考えを伝えることができたとき、うれしい気持ちになりましたか。 | 3.20 | 3.51 | 3.22 | 3.15 | 3.08 | 3.11 |
| 9 | 満足度 | 大宝思考のことばを使って、自分の考えを表現する力を身に付けることができよかったですか。 | 3.29 | 3.65 | 3.46 | 3.11 | 2.96 | 2.79 |
| 10 | 理解 | 自分の考えを話したり、書いたりするとき、大宝思考のことばを使うと、いいことがあると思いますか。 | 3.45 | 3.65 | 3.46 | 3.49 | 3.02 | 3.09 |
| 11 | 創造 | 今までに使った大宝思考のことばを思い出し、ほかの場面でも、場面に応じた大宝思考のことばを選び、使うことができますか。(できそうですか。) | 3.35 | 3.38 | 3.32 | 2.79 | 2.63 | 2.93 |
| 12 | 思考の意義の自覚 | 自分の考えを伝えるとき、大宝思考のことばを使って、相手に分かりやすく文章に書いたり、話したりすることは大切だと思いますか。 | 3.63 | 3.78 | 3.7 | 3.49 | 3.53 | 3.47 |
| | | 自分の考えを伝える前には、大宝思考のことばを使って、自分の考えをまとめたり、深めたりすることが大切だと思いますか。 | 3.53 | 3.64 | 3.64 | 3.52 | 3.19 | 3.05 |
| 13 | 未来に向けて | 大宝思考のことばを使って、自分の考えを深めたり、分かりやすく伝えたりする力は、将来、役に立つと思いますか。(役立てていきたいですか。) | 3.65 | 3.64 | 3.58 | 3.51 | 3.51 | 3.37 |

3-3. メタ認知をカリキュラムに位置付ける

知識・技能や思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力といった資質・能力の定着には、学習の見通しを的確にもち、「何のために」、「何を」、「どのように」学んでいるのかを、児童自らが自覚していなければならない。そこで、どの教科においても、学習のめあてに沿った振り返り（メタ認知）をカリキュラムに位置付け、分かったことやできたこと、次の学習に向けた課題について表現できるようにした。このことは、あらゆる場面においても内容を的確に捉え、次に生かす方法を考えることを通して、自分自身の生き方を模索することにもつながるのではないかと考えた。

三宮 (2008) は、学年の実態と発達段階に応じて認知能力を「主に、7,8歳は基本的な論理展開が可能な段階, 9歳以降は徐々に、物事の一般化・自分の視点と他者の視点の区別や関連付け・自己内対話といった高次の論理展開や思考が可能な段階である。」としている。そこで、中学年以降の学年では、できたこと・分かったことに留まらず、そのことに対する自分の考えを表すこととした。なぜなら、俯瞰して、自分の考えを書くことが、自らの学びを客観的に捉えるメタ認知の要素となるからである。加えて、これからの自分と関連付けながら表すことができる振り返りのシートを

表5. メタ認知のための振り返りシート (例)

学習内容を的確に捉え、次に生かす内容や方法を考える振り返りを通して、自分自身の生き方を考えられる大宝っ子を育てる

単元名・教材名
めあて

この単元の学習で、「何のこ」と「学習のゴール」を書く

学習内容

自分の考え・思い

「基本」単元のゴールに通じ、全体を通して、同じ内容で書かせる。
 【技能面 知識・理解・価値目標】
 ・書く、話す聞くでは、自分の活動に対する反省
 例「Eに心に落ちたことを思い出す活動のため、あまり思い出すことができなかつた。もつと日々の心の動きを感じて生活しなければいけないと思つた」

【内容面 思考力・判断力・表現力】
 ・物語では、想像した内容に対する自分の思い
 例「ごんがいたずらしたのは、さみしかったことが理由の一つだと思つた。そんなごんのことを、私はかわいそうだと思つた、その気持ちがよく分かつた」

・説明文では、筆者の考えに対する考え
 例 筆者の「便利だと思えるものでも、立場を変えて見れば、不便なものもある」という言葉に賛成だ。なぜなら、光るチャイムという逆に目の不自由な人にとっては意味がないからだ。だから、様々な人の立場に立つて考えることが大切だと思つた」

※ 学習前に「このような振り返りを行うとよい」という判断基準を二段階(◎、○)で作成
 ※ 教材によって、内容面が技能面かを覚えてよい

名前 ()

視点(自分の考えをもつて)

「この学習で身に付けた力」
 ・獲得した技能面について、その特徴を記述していく。
 例 ①問題提起の文に対して、答えとなる文があるの、そこに注目して読む。
 ②考えを伝えるためには、例を挙げて説明する」とよい。

生かしたい場面
 ・単元の最後に身に付けた力について、それを生かす。
 例 ①説明文を読むときには、問題提起と、その答えの文に気を付けて読む。
 ②考えを伝える作文(意見文)を書くときには、例を挙げて書く。

振り返りの観点

- ・話題の設定、情報の収集、内容の検討
- ・構成の検討、考えの形成 (話すこと)
- ・表現、共有 (話すこと) ・構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有 (聞くこと)
- ・話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有 (話し合うこと)

学びに向かう態度や学習の理解度の自己評価

- ・態度を◎○△の三段階で表す
- ・観点別に表す (例) ☆: 考えを伝えられた
- ・折れ線グラフで自己評価の変動を捉える
- ・プログレスシートと併用する

☆☆☆学びのプロレスチャート☆☆☆

| | | |
|-----|-------------------------|--|
| 6年生 | 自分の考えや他者の考えを関連付けながらまとめる | 学習内容と自分の生き方やあり方の関連付け |
| 5年生 | | 学習内容の価値付け (学習前に見通しをもったり、学習後に捉えたりする) |
| 4年生 | 学習内容に対する自分の考えを表す | 学習内容に対する自分の考え、授業で明らかとなった課題次 (時・単元) に向けた見通し |
| 3年生 | | 学習活動に対する自分の考え、授業で明らかとなった課題 |
| 2年生 | 学習内容を表す | 本時で分かったこと、できたこと (理由を含め、論理的に) |
| 1年生 | | 学習に対する感想 (初期)、本時で分かったこと、できたこと |

表6. 学習に対するメタ認知「振り返り」に関するアンケート（太字：3.5以上の項目）

| 調査項目 | 調査内容 | 【振り返り】 | 指数 | | | | | |
|------|-----------|--|-------------|-------------|-------------|-------------|------|------|
| | | | 6年 | 5年 | 4年 | 3年 | 2年 | 1年 |
| 1 | 自信 | 1時間の授業を振り返り、学習したことに対して、自分の考えを文章に書いたり、話したりすることは得意ですか。 | 2.82 | 3.18 | 2.98 | 2.72 | 2.37 | 2.57 |
| 2 | 定着 | 1時間の授業を振り返り、学習したことに対して、自分の考えを文章に書いたり、話したりすることはできますか。 | 3.12 | 3.33 | 3.24 | 2.74 | 2.85 | 2.48 |
| 3 | 学びの楽しさ | 1時間の授業を振り返り、学習したことに対して、自分の考えを文章に書いたり、話したりすることは楽しいですか。 | 2.90 | 3.36 | 3.26 | 2.96 | 2.78 | 2.84 |
| 4 | 想起 | 振り返りシートを基に、これまでに学習してきたことを思い出そうとしていますか。 | 3.24 | 3.40 | 3.32 | 3.21 | 2.75 | 2.47 |
| 5 | 活用 | 学習したことを思い出したり、活用したりするとき、自分のこれまでの振り返りシートを見返すことをしていますか。 | 2.71 | 3.20 | 3.20 | 2.98 | 2.33 | 2.53 |
| 6 | 活用意欲 | 振り返りを行うことで気付いた、自分のできるようになったこと、分かったことを、ほかの場面でも使っていきたいですか。 | 3.37 | 3.60 | 3.54 | 3.13 | 2.97 | 3.09 |
| 7 | 活用場面予想 | 自分のできるようになったこと、分かったことを、どのような場面で活用できそうか、予想することができますか。 | 2.94 | 3.18 | 3.08 | 2.89 | 2.12 | 2.40 |
| 8 | 活用の喜び | これまでの振り返りを基に（振り返りシートを見返すことで）、必要な力を思い出したり、問題を解決できたりしたとき、うれしい気持ちになりましたか。 | 3.18 | 3.40 | 3.40 | 3.18 | 2.88 | 2.84 |
| 9 | 満足度 | 自分のできるようになったこと、分かったことを振り返る力を、身に付けてよかったですか。 | 3.35 | 3.55 | 3.44 | 3.42 | 3.11 | 3.02 |
| 10 | 理解 | 1時間の授業を振り返り、学習したことに対する自分の考えを、友達に説明することはできますか。 | 2.88 | 3.15 | 3.20 | 2.91 | 2.78 | 2.09 |
| 11 | 創造 | これまでに学んだことのかかわりや単元で目指すゴールへの結び付きを考えながら、振り返りを行うことができますか。 | 3.00 | 3.29 | 3.06 | 2.75 | 2.61 | 2.26 |
| 12 | 次の学びへ向かう力 | これまでの学習の振り返りから（振り返りシートを見返すことで）、さらに学習してみたいことを自分で考えることができますか。 | 3.10 | 3.29 | 3.10 | 2.96 | 2.66 | 2.36 |
| 13 | 思考の意義の自覚 | 学習したことに対する自分の考えを、文章に書いたり、話したりすることは大切だと思いますか。 | 3.57 | 3.78 | 3.63 | 3.53 | 3.39 | 3.33 |
| | | これまでの学習の振り返りから、さらに学習してみたいことを自分で考えることは大切だと思いますか。 | 3.47 | 3.75 | 3.58 | 3.66 | 3.36 | 2.95 |
| 14 | 未来に向けて | 学習したことを振り返る力は、自分の将来に向けて、役に立つと思いますか。（役立てていきたいですか。） | 3.49 | 3.64 | 3.58 | 3.51 | 3.16 | 3.10 |
| 15 | 整理 | 1時間の授業を振り返り、自分のできるようになったこと、分かったことを、友達に説明することはできますか。 | 2.88 | 3.02 | 3.34 | 3.20 | 2.36 | 2.83 |
| | | 1時間の授業を振り返り、自分のできなかつたこと、分からなかつたことを、友達に説明することはできますか。 | 3.02 | 3.07 | 3.39 | 3.08 | 2.56 | 2.84 |

活用することで、今後の社会生活につながりを意識させた（表5）。このような振り返りが、汎用的な言語能力の定着につながり、次の学びへの意欲へと喚起することができたかについて意識調査を行った（表6）。

その結果、学習に対する「メタ認知」と「振り返り」の調査では「項目13. 思考の意義の自覚」において、3年生以上で3.5を上回る指数が多く見られた。これは、各教

科の授業において、学習の振り返りに繰り返し取り組んだことにより、児童が学習したことに対する自分の考えを書いたり話したりすることの意義や、振り返りを基にさらに学習したいことを考えることの意義を自覚できてきたからであると考えられる。しかし、「項目10. 理解」、「項目15. 整理」においては、どの学年においても3.5を上回る指数が見られなかった。これは、先の「大宝タイム」の結果分析同様、1時間の授業を振り返って自分の考えを友達に説明することに自信がもてていない児童がいるからであると考えられる。今後は、できるようになったこと分かったことだけでなく自分のできなかったこと、分からなかったことについても友達に説明する活動を取り入れ、自分の学習の成果を客観的に整理して、振り返りができるような工夫が必要であると考えられる。

4. 今後の課題

佐藤（2017）は、「求められる資質・能力（コンピテンシー・ベース）」の観点から非認知的スキルも含めた教育課程全体の「構造化」カリキュラム・マネジメントに関わる今後の教育課題として、「深い学び、人間的な学びとは何か、どう構想し実践化し、評価するのか」「活用型の資質・能力とすることができる思考力・判断力・表現力等、また、習得・活用を踏まえた主体的・探究的な課題発見・解決能力育成の学習・評価システムをどのように再構築するのか」「求められる資質・能力との関係から評価方法の開発、教科固有性の重視とともに学びを活かしたメタ認知、汎用性の具体的な解明が急務である。」と述べている。

本研究においても、この評価という点において明確に解明できておらず、確かなエビデンスを基にデータを示す方法を模索する必要がある。また思考スキルの活用を単に型に当てはめて言葉にするのみでなく、言語能力の基礎・基本とともに、カリキュラム・マネジメントによって各教科のつながりの中で思考し、コミュニケーションする必然性のある文脈において協働的で深い学びに取り組む中で育てたいと考えている。

今後は、より実効的なカリキュラム・マネジメントの提案を考察するとともに、特に「学びに向かう力・人間性の涵養」をどのように具体的に目指し、評価していくのかということについても、さらに研究を深めていきたい。

謝 辞

愛知教育大学教職大学院の佐藤洋一教授、椋山女学園大学教育学部の野崎健太郎准教授には、本研究のとりまとめにあたり助言を頂きました。ここに感謝の意を表します。

■引用文献

- 国立教育政策研究所（2015）資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1—使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力—（2015年3月）http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_digest_h28a.html（2017年12月23日閲覧可能）。
- 佐藤洋一編著（2017）21世紀型教育研究—新しい学びを創る—，2：10-18。
- 三宮真智子編著（2008）メタ認知：学習力を支える高次認知機能，p. 40-43，北大路書房，京都。
- 田村知子（2017）CAP-D サイクルで始めるカリキュラム・マネジメントの準備，総合教育技術（小学館），71(15)：22-25。
- チャールズ ファデル・マヤ ピアリック・バーニー トリリング（2016）21世紀の学習者と教育の4つの次元：知識，スキル，人間性，そしてメタ学習，176 pp.，北大路書房，京都。
- 名古屋市立大宝小学校（2017）未来に生きることばの力，大宝小学校研究紀要2017年10月，名古屋。
- 奈須正裕（2017）資質・能力と学びのメカニズム，p. 193-195，東洋館出版社，東京。
- 文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説 総則編・国語編 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm（2017年12月23日閲覧可能）。